



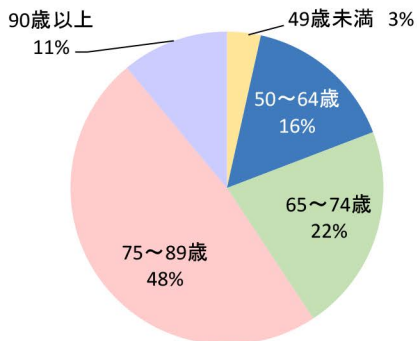
「もっと早く知っていればもっと早くからお願いしたかった」
患者さん、ご家族から言われることがあります。在宅緩和ケアは治療を最終段階まで行いBSCになって初めて提案されるケースがほとんどです。より早い段階で、いずれ希望する時に在宅緩和ケアを受けられることを知っていれば、より安心して治療を行うか行わないかの判断ができるようになりますと思われる。

介護する人がいない、処置が多いなどの理由で家で過ごすことを初めから諦めてはいませんか？ 処置を覚えてから帰る必要はありません。独居でも家で過ごす方もいます。

退院を決めてからではなく、迷っている段階からご相談頂き、必要としている多くの方に緩和ケアを届けたいと願っています。

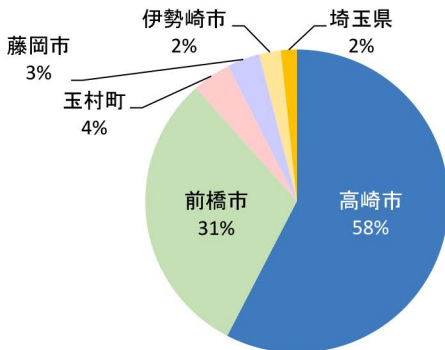
院長 竹田 果南

年齢

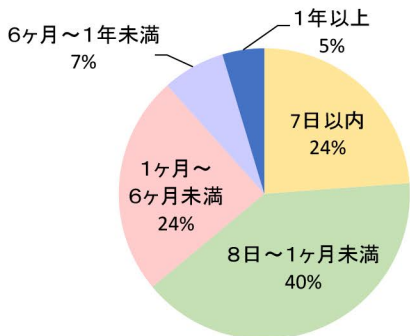


男:女 53%:47%

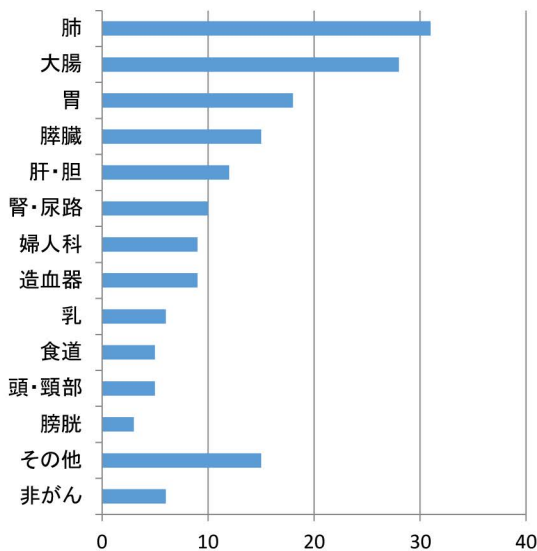
訪問する地域



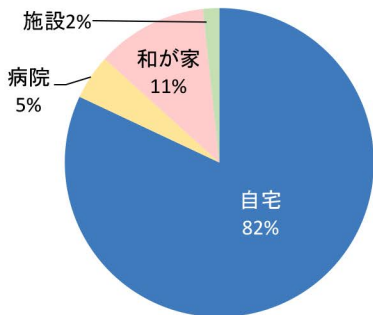
訪問期間



疾病の種類



看取りの場所



『和が家』はホスピスの施設です

去年1年間にお看取りさせていただいた患者さんは、172名でした。約6割の方が75歳以上の方です。患者さんお一人おひとりの人生や生き方を尊重し、穏やかな日を過ごしていただくように心がけています。



夜間緊急コールの状況

平成29年4月～平成30年3月
夜間(17:30～8:30)の内容を集計



「いつでもすぐに」24時間365日対応

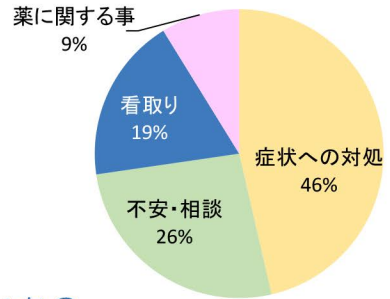
入院中はナースコールがありますね。ご自宅でも「熱が出た」「どうしたらいいの」等の不安に緊急コールで対応、安心して在宅療養ができるようにサポートしています。

1年間での緊急コール件数・・・476件

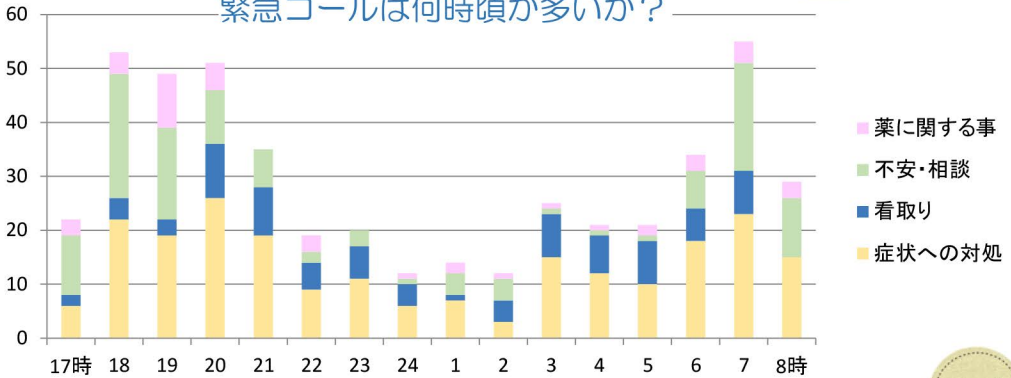
緊急訪問47%

電話対応のみ53%

電話の内容は？



緊急コールは何時頃が多いか？



コラム

どんな症状で電話をするのか？

1番 痛み、鎮痛剤の相談

2番 呼吸症状、息苦しい
痰が辛い、咳など

3番 排尿のトラブル
尿カテーテル詰まり等

4番 発熱

5番 吐き気、嘔吐

夜間は当番の看護師が自宅で専用電話をもち待機している。料理をしている時、お風呂に入っている時、子供の世話をしている時、どんな時でも電話は鳴る。不思議なもので熟睡している時でも着信音に気が付かないという事はない。当番を始めた頃は、この「取りもれ」が怖くて一時間おきに起きては携帯の着信画面を確認していた。

在宅療養の要は24時間365日サポートだと思っている。いつでも看護師と連絡がとれる安心感はそれだけで緩和につながる。

夜間の一人での出勤はさぞ大変な事だろうと良く質問される。確かに容易ではない。電話が鳴る、症状を聞く、提案する、訪問するなど一連の行為の中で予想される様々な事を考えなければならないからだ。しかし、実際に訪問すると、とても感謝される。少しでも役にたてた満足がオンコールを続けていくモチベーションになっている気がする。

訪問後の星空や夜明けの大きな太陽はとても美しい。

(島野)



より早期からの在宅医療を目指して



「〇〇なので、退院は無理。」「〇〇が出来たら話をすすめよう。」

そう考えて、患者さんが家に帰ることを希望しても中々退院が決まらないことはありませんか？色々なことが在宅でも対応可能です。『退院を決めてから』ではなく『患者さんが退院を希望されたら』まずご一報下さい。ご希望があれば当院の看護師が病院へお伺いし、在宅療養の説明をさせていただきます。

Q 疼痛コントロールがまだ出来ていなくて……

A 疼痛コントロールは在宅でも出来ます。
モルヒネやオキファスト持続皮下注射も対応が可能です。



Q もう少し食事が摂れて、点滴が外れたら……

A 在宅でも点滴は行えます。末梢点滴、中心静脈栄養いずれも対応可能です。
ご自宅に帰る事で、食欲が改善する方もいます。

Q 中心静脈栄養の手技を家族が覚えてからのほうが……
(ストマ、胃ろう、インスリン、内服の管理など)

A ご家族への指導も行えます。
ご家族が難しい場合は、毎日看護師が訪問し対応します。

Q 1人暮らしや日中介護者がいない……

A ヘルパーの訪問、デイサービスの利用など、介護保険サービスなどの連携で対応できる事が多いです。

Q 元々施設に入所だった。退院後も住みなれた施設で過ごしたい

A 施設の種類によって訪問対応が可能な場合もあります。
施設でも看たい想いはあるが、不安のある場合もご相談下さい。

Q できるだけ家で過ごしたいが、最期は入院も考えている

A 最期をどこで過ごすか決めていなくても大丈夫です。迷いはあって当然のことです。
必要に応じて入院や施設入所のサポートも行っています。

Q 非癌、認知症などで積極的な治療は希望せず、苦痛なく家で暮らしたい

A 非癌の方でも在宅緩和ケアを必要とするケースには対応しています。

患者さんが帰りたくても家族の不安が強いこともあります。せん妄、急な症状への不安、何もかも不安と考える方もあります。訪問する看護師が直接お話しすることで不安が軽減されることもあります。是非ご連絡ください。

まずはお電話ください TEL 027-353-3353 (月～土 8:30～17:30)

